平成 24 年度 大阪府立吹田高校 学校教育自己診断 集計結果 & 今後の取組み

【はじめに】

平成24年10月末から11月上旬にかけて、生徒、保護者の皆様の率直なご意見等を反映し、より良い学校運営に資するため、「学校教育自己診断」を実施いたしました。お忙しい中にも関わりませず、72.6%の保護者の皆様からご回答をいただきました。

その集計結果と今後の取組みについてまとめましたので、お届けいたします。

【資料の見方】

吹田高校では、他の大阪府立の高等学校と同じく年度当初に「学校経営計画」を策定し、その実現に向けて、教職員が力を合わせ、学校教育に取り組んでいます。

そこで、今年度の学校教育自己診断の結果等につきましても、その「学校経営計画」とリンクした形で整理しました。

*「学校経営計画」は本校のホームページ（以降、HPと記します）に掲載しておりますので、あわせてご覧ください

本資料の見方は、以下の通りです。

- ①【学校教育自己診断の質問に関わる「学校経営計画」の重点目標】
- ②【その項目に関わる質問とアンケート集計結果】
- ③【アンケート結果に対する学校の受け止め方（分析）】
- ④【来年度以降の指導の方向性（対応）】

【「学校経営計画」における今年度の重点目標】

1 規範意識の向上、とりわけ遅刻防止の推進と「朝のあいさつ運動」の拡大

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問			そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
1	遅刻居残り指導は、遅刻減少に効果があると思いますか。	1年	26.2%	25.5%	18.5%	29.8%
		2年	16.1%	34.1%	22.3%	27.5%
		3年	24.5%	29.2%	14.6%	31.8%
2	頭髮帰宅指導は、染髪減少に効果があると思いますか。	1年	21.8%	32.7%	19.3%	26.2%
		2年	25.4%	36.4%	19.1%	19.1%
		3年	24.6%	30.9%	16.5%	27.9%
3	授業中の携帯電話預かり指導は、授業への集中に効果があると思いますか。	1年	20.1%	28.1%	24.1%	27.7%
		2年	15.8%	33.7%	26.0%	24.5%
		3年	12.5%	28.2%	23.1%	36.3%
4	朝の校門指導は、事故防止に効果があると思いますか。	1年	23.8%	38.8%	17.6%	19.8%
		2年	20.4%	36.1%	22.3%	21.2%
		3年	21.5%	34.1%	15.6%	28.9%

【学校の受け止め方（分析）】

肯定的な回答が、概ね5～6割とはいえ、ほぼすべての学年で過半数を超える結果となりました。

「自由に振る舞いたい」という思いが先行しがちな年代で、肯定的な回答がこれだけの数値となったことは、保護者の皆様のご理解・ご指導のおかげと感謝いたしますとともに、これまでの地道できめ細かな指導がようやく定着し、生徒たちの共感を得ることにつながってきたことの表れだと胸をなでおろしています。

中学生までの義務教育を卒業し、大きく自由な活動領域が広がる高校生にとって、一定の規範意識をしっかりと定着させることは、長い人生を見据えても極めて大切なことです。

規範意識にもさまざまなレベルがあると思いますが、残念ながら、本校においては、ここしばらく、生徒が「遅刻をしない」、「髪を染めない」、「あいさつをする」といった、まさに基本的な規範意識から定着させていくことが喫緊の課題となっていました。

すべての生徒たちをしっかりとした社会人として、どこに出ても通用するよう、一定のラインまで意識を高めて卒業させてあげたい。そんな思いから「これがベストな指導か？」という迷いも持ちつつ、教職員一同これらの指導を続けてまいりましたが、生徒たちにも一定浸透してきたものと喜んでいきます。

また、質問4の朝の校門指導は「朝のあいさつ運動」とも連動し、今や地域の朝の一風景として定着し始めています。今後も生徒の意見を尊重しながらよりよいものにしていきたいと考えています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

遅刻や違反行為が大幅に減っています。分かりやすい一定のペナルティが、その要因であることは否みようのない事実だと思います。

その結果として、授業はもとより、学校行事や部活動についても生徒たちが積極的に取り組むようになりはじめました（具体的には、それぞれのアンケート結果をご覧ください）。

公立高校の大きな役割は、その時、その学校に入学してきた生徒の状況に合わせた現実的な指導により、それぞれの資質・能力を最大限に伸ばすことであり、本校でもその時どきの状況に合わせて全力で指導に取り組んでまいりましたが、残念ながらここしばらくは、遅刻（自分勝手な時間の登校）や染髪、無節操な携帯電話の使用などが未だに見受けられ、生徒たちは無意識のうちに学校以外の場や行動の方に気持ちが傾いてしまうという面もありました。

しかし、規範意識を身につけることで、「高校生としての自分」を第一に考え、行動できる生徒が確実に多数を占めるようになり、吹田高校は、今、あらためて63年の歴史と伝統を誇る学校として、大きく成長しようとしています。

一方で、教職員の思いとしては「このような指導がベストではない」、「できれば、生徒自身が自らを律することができる学校にしていきたい」と考えています。

吹田高校が、地域の皆さんからのご期待にもお応えでき、かつての輝きを取り戻すまで、今しばらくは現在の指導を継続することが必要だと思いますが、遅刻がさらに減少し、朝一番から気持ちよく爽やかに授業がはじまり、誰に言われなくてもTPOに応じた高校生らしい服装や行動をとることができるように、生徒の皆さんの一層の自覚ある行動に期待しています。

また、校門付近の交通量が多く、歩道と車道の整備も十分ではない本校において、朝の校門指導は、何よりも事故防止に大きな効果があると認識しており、生徒の安全を守るうえで必要不可欠なものですので、これからも継続させていただきます。

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
1	生徒が遅刻した場合、今後も居残り指導を続ける方がよいと思われませんか。	66.6%	22.0%	4.3%	7.1%
2	生徒が髪を染色した場合、保護者の理解を得たうえで帰宅指導を行っています。今後も帰宅指導を続けた方がよいと思われませんか。	67.0%	21.9%	4.9%	6.2%
3	授業中に携帯電話を使用した場合、預かり指導を行っています。今後も預かり指導を続けた方がよいと思われませんか。	75.4%	17.5%	3.0%	4.0%

【学校の受け止め方（分析）】

保護者の皆様からは、すべての項目において「（どちらかと言えば）そう思う」が9割前

後という高いご支持をいただき、本校が行っているこれらの指導について、肯定的にご理解をいただいているものと喜んでいきます。

今回のアンケートでは、生徒たちからも過半数を超える肯定的な回答が寄せられ、また、実際に遅刻や違反行為が大幅に減っています。

結果として、授業はもとより、学校行事や部活動についても生徒たちが積極的に取り組むようになりはじめました。(具体的には、それぞれのアンケート結果をご覧ください)

ご家庭でも遅刻や頭髪、服装についてご注意をいただいているものと、ありがたく受け止めさせていただいています。

「生徒へのアンケート」のところでも記しましたが、現在の本校にとって、生徒の将来を真剣に考えた時、規範意識を向上させることは喫緊かつ最重要の課題でした。

そのため、全教職員で慎重に議論を重ね、「遅刻居残り指導」、「頭髪帰宅指導」、「授業中の携帯電話預かり指導」等を導入させていただきました。

決して現在の指導がベストで、将来的にも継続していきたいとは考えておりませんが、生徒の状況に合わせて、今後も保護者の皆様のご理解を得つつ、家庭と学校が協力してこれらの指導を続けていくことが重要だと考えています。

そうすることで、生徒一人ひとりが指導の趣旨を正しく理解し、自らの行動を是正していくことができるようになってくれるものと大いに期待しています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

おかげさまで、遅刻や違反行為は大幅に減少していますが、これらの状態が吹高生の当然の規範としてしっかりと定着するまで、今しばらくは現在の指導を継続することが必要だと思っています。

指導に際しては、もちろん、ペナルティを課することが目的ではありません。

現在も心がけていることですが、ペナルティを課したから“はい、これで終わり”ではなく、時間を惜しまずにしっかりと説諭を行い、なぜ指導を受けているのか、該当生徒にきっちりと納得させること、安易な指導にならないことが不可欠だと認識しています。

遅刻がさらに減少し、朝一番から気持ちよく爽やかに授業がはじまる。

誰に言われなくてもTPOに応じた服装や行動をとることができる。

そんな風に、吹田高校が一日も早く、「ペナルティがなくても、生徒自らが自分で遅刻や違反行為を律していくことが当たり前」の学校となるよう、今後も丁寧な指導を続けていきたいと考えています。

【「学校経営計画」における今年度の重点目標】

2 行事を通じ、生徒・生徒会の主体的な活動を支援

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
5	あなたは自身は、文化祭、体育祭、遠足などの学校行事に自主的・積極的に参加していますか。	1年	44.3%	39.2%	13.6%	2.9%
		2年	54.1%	31.9%	8.1%	5.9%
		3年	41.8%	39.6%	9.9%	8.8%

【学校の受け止め方（分析）】

各学年とも、肯定的な回答をしている生徒が8割を超えています。

この数値を裏付けるように、今年度の体育祭・文化祭における事前準備や当日の様子は、学校全体として活気に溢れ、これまで以上に生徒が積極的に参加していたように思います。

体育祭においては、大縄跳びの練習、団旗・立て看板の製作、応援団のダンス練習などで、あちらこちらから生徒のかけ声が聞こえていました。

文化祭においても、ステージ発表の練習、展示物の製作などで、金槌で叩く音や様々なBGMが、そこかしこで流れていました。

生徒たちが学校行事を自ら進んで楽しもうとする姿勢が感じられました。

一方で、否定的な回答をしている生徒が全体として2割程度いることも事実です。

学校行事に対する生徒の意識は年々向上しているものの、いまだ学校行事に前向きに参加できていない生徒がいることについては、課題として認識しています。

生徒自身の学校行事に対する「好き・嫌い」はあるでしょうが、クラスなどの集団の中で他者と協調しながら、自主的かつ積極的に学校行事に取り組もうとする姿勢を「育む」ことも、学校行事の教育的意義の一つですので、それを達成できるための働きかけをしていかなければならないと感じています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

学校行事を通して人間的に成長する。これが、学校行事で一番大切にしなければならないことだと考えています。

もちろん、「高校生活の楽しい思い出をつくる」という役割も非常に大切であり、そのかけがえのない思い出はいつまでも心の中に残るものだと思います。

しかし、それだけに留まるのではなく、学校行事という貴重な体験や活動を通して、集団で物事を進めていくために必要な協調性を知り、壁にぶつかったときの問題解決能力やコミュニケーション能力を磨き、他者の優しさに気付く。

こういった、普段の学校生活だけでは育みきれない力や様々な気づきを、学校行事は与えてくれます。

そのサポートを、我々教職員が一丸となって全力でやっていきたいと考えています。

色々な個性を持った生徒の気持ちを尊重しながらも、学校行事を通して、生徒が少しでも成長できるように取り組んでまいります。

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問			そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない
6	あなたのクラスのホームルーム活動は活発で楽しいと思いますか。	1年	23.0%	44.5%	20.4%	12.0%
		2年	24.7%	39.5%	19.9%	15.9%
		3年	20.2%	43.4%	16.9%	19.5%

【学校の受け止め方（分析）】

各学年とも、肯定的な回答をしている生徒が6割を優に超えています。生徒たちの活動ぶりを間近に見ている感覚としては、少し低いのではないかと感じています。

前記、質問5の学校行事においても、クラスごとに活動する場面が多いので、「クラスのホームルーム活動」ともいえます。この質問6では、「クラスのホームルーム活動」という表現が、具体的に何を指すのか不明確だったせいもあり、多くの生徒が「クラスのホームルーム活動」を、学校行事以外のロングホームルーム（以下、LHRと表します）での活動をイメージした結果ではないかと受け止めています。

LHRの中味は、学年によって少し違いはありますが、学校行事に向けての話し合い・準備・振り返りや、進路指導や生活指導、保健に関する学習・講演などです。

これらは、教職員主導で計画を立てて実施している内容が多いことから、「活発で楽しいか」という質問に対しては、やや低い数値になっているものと捉えています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

文化祭や体育祭などの学校行事において、可能な範囲で生徒の要望や意見を取り入れて計画しているのと同じように、LHRに関しても、これまでから、教職員が生徒たちの個性を尊重しつつ、学年の発達段階を踏まえて、出来るだけ効果的・効率的な学びの機会を提供できるよう心がけて計画を立ててきました。

しかしながら、学校での集団活動の基本は「ホームルーム」であり、そのホームルームでの活動をさらに活発で楽しいものにすることは、学校全体の活性化を図るうえでも大切なことだと感じています。

今後は、今回のアンケート結果も踏まえ、LHRの計画立案においても、生徒の声を聴く場を意図的に持つ、生徒が主体的にかかわる機会を設定するなど、一層の工夫を凝らしていきたいと考えています。

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
7	本校の文化祭、体育祭などの行事は活発だと思われますか。	26.7%	55.0%	14.6%	3.7%

【学校の受け止め方（分析）】

こちらも生徒からの回答と同様に、8割を超える保護者の皆様から肯定的な回答をいただきました。ありがとうございます。

体育祭や文化祭に、ご来校くださる保護者の方も増加傾向にあり、実際の活動を見ていただけていることや、学校での取り組みや様子が、生徒を通じてご家庭にも少しは届いていることの表れだと喜んでいきます。

しかし、体育祭や文化祭に來られた保護者の皆様の「生の声」を聞きますと、まだまだ改善すべきところがあると認識しています。

生徒がイキイキと活動している姿と、学校が全体として盛り上がっている雰囲気、行事の活発さを示す「ものさし」だと考えていますが、それらをさらに活性化するためには、校内での生徒と教職員が一体となった取り組みを進めていくと同時に、その様子を保護者の皆さまにも発信できるような取り組みが必要だと感じています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

「受け止め方」にも書かせていただきましたが、行事自体をさらに活発にしていく取り組みと同時に、行事の様子を保護者の皆様にしっかりと情報発信していきたいと思ひます。

近年、めざす学校像の一つとして、「開かれた学校」という言葉がよく使われるようになりました。学校を、物理的にも意識のうえでも閉鎖的な空間にするのではなく、地域にも家庭にも開かれた学校にしていくことで、学校・地域・家庭が連携しながら子どもたちを育てていきたい。そんな想いが「開かれた学校」という言葉には込められています。

吹田高校が、より「開かれた学校」になっていくためには、まずは生徒が過ごしている学校の様子が実際に見えること。そして、保護者の皆様が、その「開かれた雰囲気」を肌で感じてもらえるようにすることが重要だと思います。

これらを実現するために、まずは、生徒たち自身が充実していると感じられるよう、学校行事としての「中身の充実」を図り、保護者の皆様には、実際に体育祭・文化祭を見に来ていただけるよう、丁寧なご案内に努めるとともに、メルマガやホームページを活用して、生徒たちのイキイキとした表情や言葉などリアルな学校生活の様子をご家庭でも見て、感じていただけるよう、「丁寧な情報発信」を心がけたいと思ひます。

【「学校経営計画」における今年度の重点目標】

3 部活動への加入促進

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
8 本校の部活動は活発だと思えますか。	23.9%	51.8%	19.3%	5.0%

【学校の受け止め方（分析）】

保護者の皆様の7割を超える方々から肯定的な回答いただきました。

本校の部活動は運動系 13、文化系 13 の合計 26 種類あります。競技の特性や部員の状況を踏まえながら、個々のクラブの活動方針に即して部活動が実施されており、平日・休日を問わず、練習や試合をしているクラブもあれば、「平日のみ」や「週2日」というような活動形態をとっているクラブもあります。

こういった活動形態の違いがありますので、お子様がどのクラブに加入しているのかによって、保護者の皆様の感じ方もまた少し違ってくるように思いますが、その中で、このように高い評価をいただき、部活動を活性化していこうとする本校の取組みが、保護者の皆様に届いているものと、少し嬉しく感じています。

おかげさまで、各クラブ活動等も活性化し、今年度も近畿大会や全国大会への出場を果たすことができました。

【近畿大会】ソフトテニス部：3年連続出場、バドミントン部：2年連続出場

空手道部：2年連続出場

【ぎふ清流国体】 バスケットボール競技大阪府成年女子チーム代表選手として、

本校顧問出場

一方で、クラブ加入率から見ますと全体で約5割と、まだまだ低い数値となっています。

1年時には、毎年多くの生徒が入部はするものの、途中で辞めてしまう生徒が多いのが実情です。その結果として、年度当初の加入率が年間通して維持されるのが難しい現状にあります。

部活動に対する生徒の考え方も様々で、前向きに取り組みたいと考える生徒もいれば、「しんどいからしたくない」、「遊びたい」というように部活動に関心がない生徒もいます。その他のさまざまな事情で、部活動をする余裕のない生徒もいます。

こういった状況の中でも、学校としては可能な限り、部活動へ参加してもらい、その活動を通して、人間的に成長して欲しいと考えています。

課題としては、部活動を前向きに捉えていない生徒に対して、部活動の良さをどのようにアピールできるのか。そして、一度入部した生徒を卒業まで続けさせるにはどうしたらよいか、具体的なアイデアを出すことですが、これは教職員だけでなく、部員と共に考

えていくべきことだと認識しています。

また、保護者の皆様に対しては、本校の部活動の様子をよりよく知っていただけるような情報発信に努めていかなければならないと思っています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

多くの生徒が「入りたいな」と思える部活動づくりと、部活動の良さを継続的にアピールしていくことが大切だと感じています。

初めての高校生活、初めての部活動。迷っている新入生の背中を押してあげられるようなアプローチを考えていきます。

また、4月の部活動勧誘の時期だけでなく、年間を通して定期的に部活動参加への呼びかけを継続していきたいと考えています。実際の部活動の様子を見てから、入部するかどうかを判断したい生徒もいるようですので、次年度は「途中入部」の推進にも取り組んでいきます。

部活動の情報発信についても、メルマガやホームページをより一層活用しながら、保護者の皆様にも部活動の様子をお伝えしていきたいと思えます。

【「学校経営計画」における今年度の重点目標】

4 教育相談・支援教育のさらなる充実と外部人材の活用
5 健康教育の充実

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問			そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
7	学校には悩みを相談できる場（先生や部屋）があると思いますか。	1年	19.5%	34.2%	22.1%	24.3%
		2年	17.6%	30.9%	27.6%	23.9%
		3年	16.8%	40.7%	18.3%	24.2%

【学校の受け止め方（分析）】

全学年で概ね半数の生徒が、学校に悩みを相談できる場があると回答しています。

教育相談・支援教育については、担任を中心とした日常的な相談体制に加え、月曜日から金曜日までの昼休みと放課後、「みかんルーム（教育相談室）」に保健部担当教職員が詰め、生徒が気軽に相談ができる体制を築いてきました。

また、緊急の際には、いち早く、いつでも相談に乗れる体制を保健部教職員中心に常時設定してきました。保健部教職員以外にもスクールカウンセラーが毎月1～2回来校し、生徒・保護者・教職員の面接、スーパーバイズ（教育相談・支援教育を総合的に運用する役割）、コンサルテーション（専門的な診断・鑑定）に当たってもらっています。

7年前にこの体制を組んだ当初は、みかんルームへの来室者も少数でしたが、徐々に相

談件数も増え、生徒の皆さんの心身の健康の充実に役立っていると感じています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

安全で、安心して学ぶことができる環境づくりが、とりわけ近年の学校においては必要不可欠なものという意識が、ようやく社会的にも定着してきました。

自らの持つ資質や能力を最大限発揮するために、教育相談・支援教育の果たす役割は、ますます大きくなっていくものと推察されます。

おかげさまで、本校の支援体制、支援に対する教職員の意識は府内でも極めて高く、安心して相談してもらえる環境を整えています。

今後もさらに、これらの実践を充実させ、生徒の皆さんが悩みをより気軽に相談でき、心身の健康について理解を深め、学校生活を充実したものとしていけるよう努力していきます。

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
4 きめ細かな教育相談体制の充実を図っています。このような取り組みは、これからもさらに充実させるべきだと思いますか。	83.5%	13.1%	1.7%	1.7%
5 お子さんの心身の健康について、連絡・相談したいことがある場合、気軽に先生に相談でき(できると思われ)ますか。	22.8%	43.2%	25.4%	8.6%

【学校の受け止め方（分析）】

9割以上の保護者の皆様が教育相談体制充実の取組みを期待してくださっており、7割近くの方がお子さんの心身の健康について気軽に相談できると回答してくださっています。ありがたいことです。

教育相談・支援教育については、生徒の高校生活あるいは人生設計における多様なニーズや不安等に適切に答えることができるよう努めています。

担任を中心としたすべての生徒への日常的な支援体制に加え、ケースによっては関係諸機関との連携を図りながら、特別委員会等の校内組織での支援を行ってきました。

また、スクールカウンセラーや支援学校教職員を講師に招いての職員研修も実施してきました。

近年、心身の発達に関わることで課題を有する生徒についても、関係諸機関と連携を取りながら生徒のニーズ、自己実現に向けたサポート体制の構築を図っているところです。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

基本的には、これまで同様、生徒たち一人ひとりの悩みや想いを真摯に受け止め、それぞれのケースに応じたきめ細かな対応に心がけたいと考えています。

また、より多くの教職員が多様な課題を抱える生徒にしっかりと寄り添えるよう、職員研修等の機会も設定し、生徒一人ひとりがより多くの教職員に相談しやすい環境を整えていきたいと考えています。

加えて、社会状況の急激な変化に伴い、生徒たちが抱える課題がより複雑化する現状を踏まえ、今後もさらに、関係機関並びに保護者の皆様とも連携を深めながら、教育相談、支援教育の進化・充実に努めてまいりたいと考えています。

保護者の皆様におかれましては、今後も引き続き、お子様に関わってお悩み、お気づきのことがございましたら、お気軽に学校までご一報いただきますよう、お願いいたします。

【「学校経営計画」における今年度の重点目標】

6 いじめを許さないことはもとより、互いを認め合える集団づくりを推進する

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
8	学校は皆さんに、男女平等や性差別、障がい・障がい者に対する正しい理解など、人権に関して学ぶ機会を大切に提供していると思いますか。	1年	19.3%	42.0%	23.4%	15.3%
		2年	15.1%	39.0%	30.5%	15.4%
		3年	18.7%	43.2%	20.1%	17.9%
9	学校は、「いじめ」や「暴力」などいろいろな問題を見逃さず対応してくれていると思いますか。	1年	12.1%	37.5%	28.7%	21.7%
		2年	6.6%	29.9%	35.8%	27.7%
		3年	9.2%	35.3%	30.9%	24.6%

【学校の受け止め方（分析）】

本校の人権教育に関して、「学ぶ機会を十分には提供していない」とする回答が約半数あり、また、半数以上の生徒が、学年が進むにつれて「いじめ」や「暴力」への学校の対応に否定的な回答を寄せています。正直、とても残念な結果でした。

生徒の多くが、本校の人権教育に満足していないこと、また、学校の「いじめ」や「暴力」に対する対応が十分ではないと捉えているという現実を、まずは真摯に受け止めたいと思います。

一方、この結果は、生徒たちがもっと人権について学びたいと望んでいると捉えることもでき、学校にとっては、極めて大切なメッセージでもあります。

本校では、人権感覚の根本は、相手の痛みが分かる「思いやりの心」だと考えています。

そして、多くの人々の体験や意見、感想を聞くことにより、自分のことを尊重しながら、同時に相手のことも尊重できる。そのような心情を持った人間に成長していけるよう、授業はもとより、学校行事、部活動に至るまで、日々の学校生活のすべてが人権を学ぶ場と捉えて人権教育に取り組んできました。

とりわけ、「いじめ」「暴力」に関しては、学校生活がひととおり落ち着いた6・7月にア

ンケートをとり、そのアンケート結果に基づいて対応してきました。その際、昨今、全国で明らかになっているさまざまな事例を「自分事」として捉え、日常的な生徒の小さな変化についても、「いじめや暴力の要素はないか」と注意深く見守ってきましたが、まだまだ把握しきれていない所があるのだと、強く再認識したいと思います。

学校において、「いじめ」や「暴力」はあってはならないことです。今、生徒の皆さんの中で「いじめ」や「暴力」を受けている人がいましたら、勇気を持って教職員に相談してください。すべての教職員は、生徒の皆さんに寄り添いながら迅速に対応することを、あらためて約束します。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

インターネット環境の普及をはじめとした情報伝達技術の著しい進化により、正誤を問わず、おびただしい量の情報が提供され、私たちは、まさに情報の渦の中に巻き込まれた時代に生きているとも言えます。

悪気がなくても、誰かを傷つけてしまうことや誰かから傷つけられてしまうこともあるなど、一人ひとりが人権についての正しい知識と認識を持ち、新たに生起する多様な人権課題への対応も含めて、適切に処していくことが求められています。

生徒たちが、本アンケートを通じて示してくれた「人権について学ぶ意欲」を踏まえ、まずは、人権ホームルームの活性化等を通じて、生徒の人権感覚を向上させ、すべての生徒が人間的にさらに成長できるよう、人権に関する学習機会をより多く提供していきます。

とりわけ、「いじめ」「暴力」については、「いじめは、あるもの」という意識を全教職員にあらためて徹底するとともに、教職員自身の人権感覚を高め、学校現場はもとより、インターネット等の現代的なコミュニケーションツールにも気を配りながら、「いじめ」「暴力」のない学校をめざしていきます。

【「学校経営計画」における今年度の重点目標】

7 安全管理、環境美化の一層の徹底と外部機関との連携

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問			そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
10	校内は、清掃が行き届いていると思いますか。	1年	9.2%	29.7%	34.4%	26.7%
		2年	5.9%	19.9%	35.1%	39.1%
		3年	7.0%	18.7%	30.0%	44.3%

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
6	校内は清掃が行き届いていると思われますか。	9.1%	48.8%	28.4%	13.7%

【学校の受け止め方（分析）】

約7割の生徒が、校内の清掃が行き届いていないと回答しています。

創立63年目を迎え、歴史と伝統を積み重ねてきた本校ですが、校舎設備の老朽化が目立ってきたことは否めない事実です。

そういう中で、日々の通常清掃に加え、定期・臨時の大掃除、清掃徹底週間、清掃担当の教職員と生徒による施設設備の安全点検、クラブ員と有志生徒によるクリーンキャンペーン、生徒保健委員によるミニ・クリーンキャンペーン（校内清掃活動）、生徒保健委員によるごみのポイ捨て予防ポスターの作製・掲示等を継続して行ってきました。安全点検で所見のあった箇所については速やかに対処をしています。

これらの取組みを行う中で、学校施設環境に一定の改善は図られたものと感じています。

一方、保護者の皆様の約6割近くの方が「校内の清掃は行き届いている」と回答してくださっています。

古い学校ではあるけれど、メンテナンスという意味で、生徒たちを中心とした小さな活動の積み重ねの成果を、好意的に評価していただいたことの表れだと喜んでいきます。

加えて、玄関前プランターなど、PTAの皆様方が1年を通じて整備してくださっている効果でもあると心から感謝しています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

校舎設備老朽化の改善については、学校の努力だけでは困難な面もありますが、府教育委員会にも引き続き計画的な整備を要望し、少しずつでも着実に整備していきたいと思えます。

同時に、生徒・教職員の一人ひとりが「自分の学校・母校」という意識を持ち、清掃に対する意識を少しずつ高めることが、「古いけれど、手入れの行き届いた学校」につながると考えています。汚さないこと、汚れやゴミに気づいた最初の方が率先して対処するという意識の定着を図りたいと思えます。自分たちの学校の美化は自分たち自身が責任を持って取り組むという意識を持てるよう、指導していきたいと考えています。

今後も、生徒全員が参加できる学校環境美化活動をさらに工夫することで、保護者の皆様がいつ来校してくださってもきれいな学校であり、清掃の行き届いた環境で学校生活を送る喜びを生徒に感じさせてあげることができるよう、粘り強く取り組んでまいります。

引き続き、保護者の皆様にもご理解とご協力をいただければ幸いです。

【「学校経営計画」における今年度の重点目標】

8 公開授業と授業アンケートの完全実施
9 研究授業の充実とフィードバック
10 授業規範の確立

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問			そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
11	授業は分かりやすく、興味が持てますか。	1年	8.9%	36.2%	33.6%	21.4%
		2年	5.2%	32.5%	40.2%	22.1%
		3年	6.6%	32.6%	35.9%	24.9%
12	先生は、授業中の私語などの生徒の勝手な行動を注意していますか。	1年	24.9%	59.0%	9.9%	6.2%
		2年	26.4%	51.3%	17.8%	4.5%
		3年	26.2%	54.6%	11.1%	8.1%

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない
9	本校では、すべての教員が授業アンケートを行い、授業改善に取り組んでいます。このことをご存知でしたか。	6.9%			93.1%
10	生徒は吹田高校の授業内容に満足(わかる、興味が持てる)していると思われませんか。	7.5%	48.6%	33.2%	10.6%
11	規律ある授業が行われていると思われませんか。	10.7%	58.6%	23.5%	7.2%

【学校の受け止め方（分析）】

生徒の6割近く、保護者の皆様の4割以上の方から「授業が分かりにくい」「興味が持てない」という回答をいただきました。

一般的に、高校での授業はただ単純に楽しいだけのものではなく、充実感や達成感を得るためにはある程度の忍耐と努力が必要ですが、生徒に一定の学力をつけることは学校として当然の責務であり、中でも授業は学校の根幹をなすものです。

そのため、教員の授業力の向上に向けては、これまでから「授業見学週間」(*1)を設定したり、生徒たちの生の声を聴くための「授業アンケート」、さらには大阪府教育センターの「パッケージ研修」(*2)を積極的に導入するなど、精力的に授業改善に努めてきました。

(*1)教員が相互に授業見学を行い、真摯なアドバイスを交換する機会として、年に1度1週間を設定しています。

(*2)教育センター所属の指導主事のアドバイスを受けた本校教員が研究授業を行い、その後、その授業を題材に、全教員で授業力向上に向けた研究協議を行うという、一連の研修

しかしながら、今回の結果を真摯に受け止め、学校としては、授業に興味をもたせる一層の工夫や、学習に対して不安がある生徒に対するさらなるケアが必要だと認識しており、

早急に改善を図りたいと思います。

授業アンケートは3年前から実施してきましたが、保護者の皆様の9割以上の方にご存知いただけていないという結果でした。

授業改善に取り組んでいる学校の姿勢がほとんど伝えることができず、改善を図りたいと思います。

授業規律の確立については、生徒の8割、保護者の皆様の7割から肯定的な回答をいただき、ある程度の授業規律が確立されていると思います。

しかしながら、授業中の私語への注意が不十分だと感じている生徒も2割程度おり、これらの「もっとしっかりと学びたい」という声を大切にしたいと思います。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

繰り返しになりますが、生徒に一定の学力をつけることは学校として当然の責務であり、中でも授業は学校の根幹をなすものです。

今回の結果を踏まえ、すべての教員が自らの授業技術を磨く必要性をさらに強く自覚し、取り組むことは当然ですが、教科単位での授業技術の研究を一層充実させるなど、学校としての最重点課題と位置づけ、改善に努めてまいります。

一方で、授業はまさに教員と生徒の共同作業であり、お互いが求められる役割と責任を果たすことで初めて「よい授業、興味が持て、分かる授業」が成立します。

授業規律のさらなる向上が大切になりますし、生徒たちが必要な予習や復習をしてくることが、やはり授業改善の大きな前提になります。

しかしながら、本校生の中には、依然として必要以上のアルバイトや遊び等を優先し、家庭での学習時間が著しく少ない生徒がいることも現実です。

学校・家庭が協力し、一人ひとりの生徒の「今しかできない、高校生としての生活」を、より充実したものにしてもらいたいと願っておりますので、ご家庭におかれましても、お子様が必要最低限の学習時間を確保できるよう、「手は離しても、目は離さない」関わりをお願いいたします。

保護者の皆様のご理解とご協力をいただきながら、生徒が、学ぶこと、新たな知識を得ることの楽しさと大切さに気づくことができる授業づくりに、学校をあげて取り組んでいきたいと思います。

授業アンケートにつきましては、アンケート結果に基づき授業改善に取り組む学校の姿勢を、さらに丁寧にお伝えさせていただきたいと思います。

【「学校経営計画」における今年度の重点目標】

11 3年間を見据えた系統的な進路指導計画への改善

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問			そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない
14	進路希望に応じて、コースや選択科目が選べると思いますか。	1年	24.4%	50.4%	18.5%	6.7%
		2年	27.6%	49.6%	16.4%	6.3%
		3年	21.0%	45.6%	16.9%	16.5%
15	進路ホームルーム等は、将来の進路を考えるのに役立っていると思いますか。	1年	15.2%	50.6%	21.2%	13.0%
		2年	17.7%	50.6%	21.1%	10.6%
		3年	12.1%	45.2%	25.4%	17.3%

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない
12	本校では、お子さんの進路希望に応じたコースや選択科目が選べるようになっていると思われませんか。	18.0%	62.7%	15.3%	4.1%
13	本校では、お子さんの進路実現に役立つ情報提供や、学力向上のための講習などが行われていると思われませんか。	13.6%	54.4%	26.8%	5.2%

【学校の受け止め方（分析）】

「希望に応じた、コースや選択科目（の設定）」については、生徒からも保護者の皆様からも概ね7割を超える肯定的な回答をいただきました。

3年生にやや否定的な回答が多かった理由は、実際に3年進級時に希望した選択科目が、基準（15人）に達しなかったために開講されなかったことや、希望進路と選択科目の関連について、必ずしも十分な説明・指導がなされなかったと感じているためではないかと捉えています。

これらを改善するためには、3年間を見据えた系統的な進路指導をさらに充実させることで、生徒がこれまでより早めに希望進路を決定できる環境を整えること、ならびに、とりわけ3年進級時の選択科目の決定に向けて、より丁寧で明快な説明・指導が必要だと考えています。

また、進路ホームルーム（以降、HRと記します）や情報提供などの進路指導に対しては、生徒・保護者の皆様ともに概ね7割近くの方から肯定的な回答をいただきました。

一方で、否定的な回答が、実際に進路実現に向けて行動している3年生に最も多く、保護者の皆様の3割の方から否定的な回答をいただいていることについては、進路指導の内容に一層の改善の余地があると受け止めており、さらに効果的・効率的な指導に努めたいと考えています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

高校卒業時の進路選択は、一人ひとりの生徒の人生にとって、最終的な選択とまでは言えないものの、一つの大きな分岐点となるとも重要な選択だと考えています。

その選択が、何よりも本人にとって、きっちりとした理解に基づき、納得できるものと

なるよう、「希望に応じた、コースや選択科目」はもとより、教育課程全体を見直すとともに、進路指導のさらなる充実に努めます。

具体的には、まず教育課程について、希望進路の実現をより効果的に後押しでき、より分かりやすく選びやすい編成となるよう努めます。

あわせて、とりわけ3年進級時の科目選択に際しては、一人ひとりの生徒が自らの希望進路に応じた選択が可能となるよう、教務部、進路指導部はもとより、学年団、各教科がしっかりと連動し、進路希望と強く関連付けた進路HRを行うなど、十分に時間をかけてより丁寧に説明・指導するよう努めます。

また、生徒・保護者の皆様と教職員との意思疎通が十分に図れるよう、日程等の見直しを行うとともに、科目選択の流れとポイント等を本校ホームページにも掲載し、保護者の皆様にも十分にご理解をいただき、お子様とともに選択科目の決定に関わっていただけるよう努めます。

進路指導の充実に向けては、新たに本校独自の「吹田進路プログラム」(*)を策定し、お子様の入学から卒業までの3年間を見通したうえで、各学年での必要に応じた進路HRを効果的に実施するとともに、より多くの教職員が一体感をもって進路指導にあたることができるよう、これまでの進路指導部・担任団に加えて、副担任も含めた学年団として企画・運営する体制とし、一人ひとりの生徒に向いあったきめ細かな進路指導に心がけます。

また、生徒に対する進路HRの内容等を、同時に保護者の皆様にもお知らせできる方策を検討し、保護者の皆様にも十分にご理解をいただいたうえで、お子様とともに進路希望の決定に関わっていただけるよう努めます。

(*)現在の進路指導を、今まで以上に組織的・計画的に発展させた新しい進路指導計画のことです。

【「学校経営計画」における今年度の重点目標】

12 進学講習の定着・発展

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
13	本校では、お子さんの進路実現に役立つ情報提供や、学力向上のための講習などが行われていると思われますか。	13.6%	54.4%	26.8%	5.2%
14	昨年から本校教員による進学講習に加えて、予備校の講師等による実践的な進学講習を導入しました。このことをご存知でしたか。	34.2%			65.8%

【学校の受け止め方（分析）】

学校が提供させていただいている進路情報や講習については、保護者の皆様の概ね7割の方が肯定的にとらえていただいておりますが、3割の方からは進路の情報提供や進学のため

めの講習が不十分だという回答をいただきました。

学校が提供する情報や講習が、まだまだ生徒・保護者の皆様のご希望に十分には応えられていないこと。

また、外部講師による進学講習の導入については、保護者の皆様の認知度が極めて低いことがわかりました。

本校では、近年の生徒たちの規範意識の定着を踏まえ、全ての生徒が持っている資質・能力を最大限伸ばす指導の一つとして、進路指導、とりわけ進学志向の高まりに応えるべく、来年度入学生から進学クラスも設定するなど、進学指導においてきっちりと結果を出すことができる体制整備を新たな学校目標として掲げ、吹高の伝統復活に取り組んでいます。

しかしながら、学校で行う教育活動は、保護者の皆様にもしっかりとご理解をいただき、ご家庭においても共通認識に基づいてご協力・ご指導をいただくことで、より大きな成果につながるものがほとんどです。

保護者の皆様への情報発信をさらに充実させ、学校・家庭の総力を結集できる環境づくりが喫緊の課題だと受け止めています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

これまで、ともすれば進路指導部・担任団にとどまってしまう、生徒一人ひとりの進路希望や実力テスト等の情報を、できる限り教職員全体で把握するように努め、これまで以上にきめ細かく、より実践的な進学講習等を企画・実施します。

また、講習の実施時期や目的を明確にし、生徒はもとより、学年ごとの保護者対象進路説明会や進路講演会などをこれまで以上に企画・実施することで、保護者の皆様にも確実にお知らせします。

加えて、生徒に連絡物を配布する際にも、持ち帰って保護者にも必ずご覧いただくよう指導に留意させていただきますとともに、とりわけ進路関係の内容については、保護者の皆様も対象にした進路ニュースの発行等を検討するなど、保護者の皆様への情報発信をさらに充実させます。

【「学校経営計画」における今年度の重点目標】

13 「朝ガク」の全学年実施

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
13	基礎学力の向上等をめざして、「朝ガク」を実施していますが、役に立っていると思いますか。	1年	14.3%	29.0%	22.1%	34.6%
		2年	6.3%	19.9%	25.8%	48.0%
		3年	7.4%	14.8%	24.8%	53.0%

【学校の受け止め方（分析）】

1年生では4割を超える生徒が肯定的な回答でしたが、2・3年生では否定的な回答が7～8割と、かなり大きな差が生じました。

「朝ガク」の目的は、大きく2つあると考えています。

1つは、まさに基礎学力の向上をめざすことであり、もう1つは、1時間目の授業を落ち着いた環境でスタートさせることです。

全学年とも1年間を通して朝のSHRの時間（8:35～ 10 分間）を利用してプリント学習を実施しましたが、これまでの経緯もあり、2・3年生は昨年度までと同じように、自主的な参加形式だったこともあり、参加状況も芳しくありませんでした。

一方で、1年生（63期生）には参加を義務づけ、朝ガクに参加しなかった生徒には、放課後の居残指導を加えたこともあり、ほとんどの生徒が毎朝参加することができました。

このように、学年によって参加状況が異なっていたこともあり、1年生の約4割が役立っていると感じていますが、2・3年生では低い数字となっているものと受け止めています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

1年生では、上記のように新たな指導を取り入れたことで、2つの大きな成果があったと考えています。

1つは、近年本校では遅刻者数が劇的に減少していますが、1年生（63期生）の遅刻者数は、61・62期生が1年生だったころの遅刻者数と比べても、さらに一段と減らすことができました。

これは、学校生活を規律あるものとするためには、とても大きな成果です。

また、1時間目の授業が落ち着いた状況の中で開始できたことは、もう1つの極めて大きな成果だと認識しています。

一方で、「朝ガク」の目標・内容については、学年進行に応じて、さらに整理する必要もあると考えています。現在学校では、生徒のニーズも勘案しながら、一層の工夫を重ねたうえで、この朝の学習スタイルを継承する必要があると考えており、具体的な内容・方法について慎重に協議しているところです。

【アンケート項目と集計結果】

■生徒へのアンケート

質問			そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
16	本校の教職員の生活指導・進路指導には、先生によってバラつきがあると思いますか。	1年	35.6%	42.2%	15.6%	6.7%
		2年	38.6%	43.2%	14.0%	4.2%
		3年	37.9%	37.1%	14.0%	11.0%

■保護者へのアンケート

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
15	ご家庭で、お子さんが教職員による指導の差(バラつき)を話題にされることはありますか。	11.2%	25.2%	33.5%	30.1%

【学校の受け止め方（分析）】

教職員の指導に対して、生徒のおよそ8割、保護者の4割弱の方から「バラつきがある」というご回答をいただきました。

あえて「バラつき」という曖昧でネガティブな表現を組み込んだ質問でしたので、いただいたご回答にもさまざまな意味が込められているものと拝察しますが、決して好感を示していただいたアンケート結果ではないと真摯に受け止めています。

とりわけ、日常的な指導において、学校としてきちり守ろうと生徒たちに求めている規律や、大切な連絡事項等について、例えば、ある教職員は「見て見ないふりをする」が、ある教職員は「きちりと指導する」という場面や、ある教職員は「丁寧に、思いを込めて伝える」が、ある教職員は「形式的で、はっきり伝えない」というような現状があるとすれば、生徒たちは混乱し、学校の指導全般に対して不信感を抱くことにも繋がってしまいます。

教育は、生徒と教職員の相互信頼という基盤があって初めて成り立つものであり、その信頼関係を損なう危険性については、小さなうちに回避・改善する必要性をあらためて強く感じています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

社会の移り変わりに伴い、教育課題もますます多様化・複雑化していく中で、学校だけですべての課題に対応することは困難な現状があり、「学校にお任せ」ではなく、まさに、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを見守り、育むことが不可欠となっています。

そして、そのような望ましい環境づくりの第一歩は、“目標を共有”することだと考えています。

大阪府立高校では、学校としての「めざす姿（長期的）」や、中期的（3年程度）目標、当年度の重点目標を整理したものととして「学校経営計画」を、さらに当年度の重点目標の詳細を整理したものととして「学校教育計画」を毎年策定しています。（以降、2つの計画を「計画」と記します）

これらは、学校のホームページにも掲載しており、いわば、社会に対する学校としての「約束」です。

本校では、これらの「計画」の策定にあたって、全教職員が意見を出し合う機会を設けるなど前年度の総括を丁寧に行い、足りないところやさらに改善していかなければならない点を明らかにしたうえで翌年度の「計画」を策定しており、この「計画」の達成に向けて、学校として一定の規律を守り、生徒に対して誠意をもって対応することを、すべての

教職員の最低限のミッションとして申し合わせています。

一方で、生徒にさまざまな個性があるように、教職員にもやはり得手・不得手や個性があり、“行き過ぎて一律的な指導”に徹することは、人間同士としての相互信頼が原点であるべき教育において、逆に心の通わないものになってしまうことも危惧されます。

それぞれの教職員により、それぞれの「味」があることは、「彩」のあるしなやかな指導につながるというメリットもあります。山の頂上に至るルートが1つだけではないように、それぞれの教職員がそれぞれの個性と得意な部分を最大限活かしつつ、同時に教職員集団（チーム吹田）として、謙虚に足りないところを自覚・補完しあい、大きな意味での「計画」達成に向けて取り組もうとしていることについては、ご理解を賜りたいと思います。

なお、具体的に指導のバラつきを少なくするには、当然のことながら教職員間の意思の疎通を一層図る必要があります。管理職はもちろんのこと、首席、各分掌（教務・進路・生徒指導・生徒会・保健）部長、学年主任等を中心に、分掌会議や担任会等、各種教職員間の会議において常に問題意識をもって、十分に打ち合わせをする必要があると考えています。

今後とも、保護者・地域の皆様からのご意見やご要望をさらに真摯に受け止め、教職員が一丸となって教育活動に専心してまいります。

お子様への指導に疑問やご質問がございましたら、「計画」自体に対する疑問等については教頭まで、日常の個別の指導に対しての疑問等については各担任、各部長や学年主任まで、小さなことでも結構ですので、お気軽にご連絡やご質問を頂ければ幸いです。

その他

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問			そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
17	あなたは、学校からの連絡を保護者にきちんと伝えていますか。	1年	22.1%	36.4%	26.8%	14.7%
		2年	21.1%	37.2%	27.1%	14.7%
		3年	22.7%	40.3%	16.8%	20.1%

■保護者へのアンケート

質問		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
16	家庭では、お子さんと学校での出来事などについて話をされますか。	32.4%	46.2%	15.6%	5.8%
17	学校は、家庭への連絡や保護者との意思疎通（意見や要望を聞く機会）をきめ細かく行っていると思われますか。	9.2%	42.0%	37.9%	10.9%
18	あなたは、文化祭や体育祭、授業参観、懇談会、進路説明会などの学校行事に参加されていますか。	16.3%	41.0%	26.5%	16.2%
19	学校からの情報や連絡（PTA活動を含む）は、お子さんやホームページ、メールマガジン等を通して把握していただいていますか。	39.7%	37.0%	14.8%	8.6%

【学校の受け止め方（分析）】

学校での出来事について、約8割の生徒が家庭で保護者の皆様と話が出来ていることに安心しています。

一方で、生徒の4割が学校からの連絡を保護者に伝えていない現実があり、保護者の皆様からは、学校との意思疎通について不十分だという回答が半分近くありました。

現在、無断欠席、頭髪、学校内での怪我や成績など生徒に何かあった時には保護者に連絡することを徹底しており、当然のことながら、本校では、学校と保護者の皆様とが協力しながら、生徒の指導にあたりたい、また、保護者懇談会や意見箱の設置など保護者の皆さまとの連携を大切にしていきたいと考えています。

そのような中、約半数の保護者の皆様から否定的な回答をいただいていることは、学校側の取組みがまだまだ不十分だと真摯に受け止めています。

また、学校からの情報について、約8割の保護者の方が把握していただいていることに、学校としては大変感謝しています。本当にありがとうございます。

今後もホームページやメールマガジンを充実させていきますので、引き続き、ぜひ忌憚のないご意見やご要望をお寄せください。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

今後も、ご家庭でのコミュニケーションを大切にさせていただきたいと思います。

また、すでに記させていただきましたが、学校で行う教育活動は、保護者の皆様にもしっかりとご理解をいただき、ご家庭においても共通認識に基づいてご協力・ご指導をいただくことで、より大きな成果につながるものがほとんどです。

学校といたしましても、学校での教育活動に、より一層保護者の皆様のご理解・ご協力を賜るため、進路指導、教科指導、テスト、行事等の情報提供をさらにきめ細かく行い、相互の意思疎通を丁寧に行ってまいりたいと思います。保護者の方で疑問や質問がございましたら、遠慮なくご連絡ください。

また、高校生になると様々な理由で、文化祭や体育祭等の行事で保護者の方が来校されない場合も多いかもしれませんが、ぜひとも学校にお越しいただいて実際に生徒たちが活動している様子をご覧いただければ幸いです。

■生徒へのアンケート

質問		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	
18	あなたは、学校に行くのが楽しいですか。	1年	31.3%	41.5%	17.3%	9.9%
		2年	35.3%	41.4%	13.5%	9.8%
		3年	30.0%	42.2%	11.1%	16.7%

■保護者へのアンケート

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
20	お子さんは、学校が楽しいと言っていますか。	39.7%	33.0%	21.5%	5.8%

【学校の受け止め方（分析）】

学校が「楽しいか？」という、少し抽象的な質問でしたが、生徒、保護者の皆様ともに、「学校が楽しい（と言っている）」という回答が7割を超えており、まずは少し安堵しています。

一方で、3割弱の生徒が「（どちらかといえば）そうではない」という回答結果でもあります。

「何か具体的に楽しくない原因があるからなのか？」

「ほかにもっと楽しい居場所があるからなのか？」

「家庭では、あまり学校のことは話題にならないからなのか？」

いろんなケースがあると思いますが、もしも楽しくない場所に毎日通わなければならない状況に陥っているとすれば、これはとても辛いことだと思います。とりわけ、具体的な原因がある場合には、できればお気軽にご相談をいただければ幸いです。

これらの生徒の気持ちを考えると、学校としての取組みにまだまだ改善の余地があることを、しっかりと受け止めたいと思います。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

ともすれば、社会全体として、刹那的な“その場限りの楽しさ”を求めがちな風潮もある中で、学校としては、ぶれることなく『授業が分かり学習することに充実感があること、学校行事に積極的に取り組み達成感があること、部活動に一所懸命に打ち込み、高い一体感や爽快感が感じられること、友だちとの人間関係において暖かみを感じ、友情を深めること等——これらのことを実現して「学校が楽しい」ものとなる』というメッセージを、生徒たちに発信していきたいと思います。

学校には、様々な困難や事情を抱えた生徒もいますが、高校生という多感な時期に、学校という場だからこそ学び、身につけることができる、人生の中でも貴重な経験・体験を何よりも大切にできるよう、すべての一人ひとりの生徒がまっすぐに学校生活に取り組んでもらいたいと思います。

教職員といたしましても、今回の学校教育自己診断でいただきました様々なご意見を今後の教科指導、生徒指導、進路指導、学校行事、部活動、教育相談等、すべての学校での取組みに活かし、一致協力して「計画」の完全達成をめざして日々の指導に取り組み、生徒・保護者の皆様の本質的な意味での満足度をさらに向上させるべく努力してまいります。

今後とも、吹田高校の取組みに対しまして、引き続き深いご理解とご協力をお願いいたします。

大阪府立吹田高等学校 平成 24 年度学校教育自己診断 「自由記述」に対する「受け止め方」「指導の方向性」

【保護者へのアンケートからいただいたご意見】

各種検定（の受検者）が希望者のみでは参加する生徒が少ないのではないのでしょうか？
もう少し積極的に多くの生徒が受けられるように、上手な方法があれば考えていただきたい。
（資格取得は進路に有利になると思うので。）

【学校の受け止め方（分析）】

ご指摘のとおり、資格によっては大学等の受験や就職試験において、直接的に有利になる資格があります。

また、高校卒業時点で直ちには役立たなくても、将来の役に立つ資格もあります。

これらのことを踏まえて、これまでから学校では、授業やホームルーム等を通じて、積極的な受験を呼びかけてきました。また、保護者にもメールマガジンを通じて案内するなど周知に努めてきました。

また、「日本漢字能力検定」（漢検）や「ワープロ実務検定」などは単位認定も行っていきます。

しかしながら、受験者数が少ない検定もあり、さらに強く呼びかけるとともに、新たな周知方策についても検討していきたいと思えます。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

来年度は「実用英語技能検定」（英検）の単位認定ができるようにします。授業では説明していますが、さらに強調していきます。

また、将来的な布石として、本校に入学してくる生徒が、本校を志願する時点や入学時点から検定取得を1つの目標・メリットと考えてもらえるよう、ホームページ等でも本校の検定取得の取組みや単位認定制度について、広く知らせていきたいと思えます。

【保護者へのアンケートからいただいたご意見】

指定校推薦枠を増やしてほしい。

【学校の受け止め方（分析）】

近年、本校でも、志を高く持ち、真摯に大学進学をめざす生徒が増加傾向にあります。

このような中、「高校において、当該大学等が求める基準以上の成績等を収め、高校が推薦する生徒について、ほぼ確実な合格を前提とした推薦枠」についてのご指摘であろうと思えます。

指定校推薦は、大学側が高校を選択して推薦を依頼される制度ですので、高校側の希望では推薦人数枠を増やすことはできませんが、一般的に、その高校から、その大学を受験

する人数や入学者数が増えると、指定校推薦枠をいただける可能性が高くなる傾向があるようです。

ちなみに、今年は新たに4校から指定校推薦の依頼を受けました。

生徒にとっては、日ごろの高校生活に全力で打ち込むことで、卒業時点での大学等への進学が、早い時期（多くの指定校推薦入試は、10月・11月頃実施されます）に、ほぼ確実に保証されることから、本校でも入学時点から希望する生徒もいます。

一方で、あくまで「大学側が高校を選択して推薦を依頼する制度」ですから、毎年必ず本校に指定校推薦が依頼される保証がないこと（学部が変わることもあります）や、複数の生徒が希望した場合には、校内選考が行われること、本当に自分が学びたい内容に適した学部・学科かどうかなど、必ずしも指定校推薦での受験が本人にとって最善であるかは一概には判断できかねる場合もあります。指定校推薦は専願ですので、受験する学校、学部、学科が第一希望であることが重要です。

普段の学校生活をきっちりとこなし、その時期に自分が本当に学びたい領域がある場合に一つの方法として活用するものと考えてもらいたいと思います。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

上述のように、指定校推薦の人数枠は、受験者数や合格者数などの入試実績が一定考慮される可能性が高くなる傾向があります。

この枠が大きくなることは、少なくとも生徒たちの進路にとって、幅が広がることは確かです。

大学進学をめざす生徒が増加傾向であることを踏まえつつ、学校全体の進学への取組みを強め、志望校の入試を突破できる力を伸ばす指導を継続的に行うことで、受験者・入学者が増え、結果として指定校推薦枠が広がるという状態が望ましいと考えており、長期的な視野に立って受験希望の多い大学に対しての働きかけを行いたいと思います。

【生徒へのアンケートから届いた意見】

- ・もっと行事を増やして欲しい。
- ・行事が盛んで楽しくなれば学校生活も楽しくなるので、その延長で学びに対してやる気が出てくると思う。参加した文化祭は高校生のわりにはおとなしく感じた。

【学校の受け止め方（分析）】

学校生活の中で、多くの生徒が純粋に「楽しい」と感じるものは、学校行事だと思えます。ですから、学校行事の「数」が増えれば、楽しいことが増えるということは決して間違いではないと思います。

また、行事を通して学校生活が楽しくなることは、日ごろからの勉強にも頑張ろうとする大きな動機付けの一つだと思えます。学校行事をより活発にするための取組みは、今後も

継続していきたいと思います。

しかし、そのうえで、現在の本校において、今、本当に大切なことは「楽しさの数」の前に、まずは「楽しさの質」を上げることだと思います。

例えば、文化祭や体育祭を実施していく上で重要な、企画・運営・準備・練習など、まずは生徒があと少し努力しなければいけない部分があるように感じています。

「自分たちで作り上げる学校行事」という意識を高く持ち、クラスや周りの生徒と協力し合いながら、一生懸命取り組む姿勢がもっと高まることで、「楽しさの質」がワンランク上がることを期待しています。

学校生活の中で「楽しめる何か」を願っているという生徒の気持ちは、しっかりと受け止めたうえで、「楽しさの数」を増やすのは、その次にした方が、生徒たちの感動はより高まると思います。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

上述のとおり、学校行事の「質の向上」をめざして、運営上の課題や生徒の意識向上に取り組んでいきたいと考えていることから、今、学校では、生徒の声に耳を傾けながら、来年度に向けて学校行事の中身の改善について積極的に検討しています。

例えば、体育祭の種目について生徒や教職員へのアンケート結果をもとに、新たな種目を増やすことを考えています。文化祭については、今年度の活動を通して明らかになった問題点を振り返り、展示・発表部門の景品規制の見直しやクラスに配当される予算の見直しなどを具体化していきたいと思います。

同時に、生徒には「学校行事の意味合い」や「目的」といったことについて、あらかじめきっちりと説明していきたいと考えています。

加えて、学校生活における「学校行事」と「勉強」両方の大切さを理解してもらえるように粘り強く働きかけ、最終目標としては、学校行事と勉強をうまく関連させながら、両方ともに前向きな気持ちを持って取り組める、そういった生徒に成長してもらい、すべての学校活動の活性化につなげていきたいと考えています。

【生徒へのアンケートから届いた意見】

クリーンキャンペーンを運動系部員だけでやるのは不満。他の生徒も参加しては？朝のあいさつ運動も運動部員だけでなく文化系部員も参加しては？何でも生徒会や運動系部員ではよくない。

【学校の受け止め方（分析）】

クリーンキャンペーンは、約10年前に「ロードワークの場となる学校周辺をキレイにしよう、あわせて、少しでも地域の皆様に日ごろの感謝の気持ちを伝えよう」という思いから、運動系部員によってスタートしました。

しかし、挨拶を通じた地域の皆様との交流、環境美化に対する意識向上という大きな主旨を踏まえると、運動系部員に限らず他の生徒にも参加の輪を広げていくことが大切だと感じています。

朝のあいさつ運動についても、生徒の参加の輪を広げる方向で取り組んでいきます。

ただ、一度に全てのクラブや全ての生徒で始めるのは難しい点もあり、これまでの経緯も踏まえて、まずは、意識を持って率先して取り組んでくれるクラブから始めています。

今、この運動は、生徒会はもとより、軽音楽部や社会見学部、放送部などの文化系クラブにも少しずつ広がりをを見せており、生徒が中心となって主体的に取り組む学校の実現に向けて、着実に成長していることを、好ましく実感しています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

クリーンキャンペーンや朝のあいさつ運動にとどまらず、最終的にはすべての学校行事について、生徒が主体となり、自らの発意ですべての生徒が一体となって、さまざまな活動に取り組んでくれる学校をめざしています。

近年、確実に生徒の意識も変わりはじめ、この大きな目標に着実に近づいていることを感じています。

来年度以降も、それぞれの活動の主旨と、実施上の安全管理の両面を慎重に勘案しながら、生徒たちとともに教職員が一丸となって、この好ましい流れを絶やすことなく、さらに推進していきます。

【生徒へのアンケートから届いた意見】 & 【保護者へのアンケートからいただいたご意見】

- ・街灯等の照明を増やしてほしい。
- ・トイレをきれいにしてほしい。
- ・食堂のメニューを豊富にしてほしい。

【学校の受け止め方（分析）】

創立63年目を迎え、歴史と伝統を積み重ねてきた本校ですが、校舎設備の老朽化が目立ってきたことは否めません。

学校でも、少しでも生徒たちの生活環境を豊かなものとするため、さまざまな取り組みをしてきました。通常の清掃に加え、定期・臨時の大掃除、清掃徹底週間、教職員と生徒による施設設備の安全点検、クラブ員と有志生徒によるクリーンキャンペーン、保健委員の生徒によるミニ・クリーンキャンペーン（校内清掃活動）、ごみのポイ捨て予防ポスター作製・掲示等です。生徒と教職員が力を合わせたこれらの取り組みにより学校環境美化について、一定の改善はできつつあるのではないかと感じています。

照明設備に関わりましては、照度検査の結果では、学校内の各地点の照度は基準値に達しておりますが、夜遅くになると校舎外の一部で暗い箇所が出ています。

また、トイレにつきましては以前から、「清掃してもなかなかきれいにならない」、「においが取れない」との声がありました。専門業者の定期的な清掃に加え、汚れとにおい対策として一昨年度に全てのトイレの床をコーティング加工しました。以前に比べ、一定の効果はあったと感じています。

食堂メニューについては、生徒たちの声も参考にしながら、教職員・食堂業者で構成する食堂委員会で検討することとなり、生徒の利用状況なども踏まえて、リーズナブルで栄養価等にも配慮したメニューが提供できるよう検討してきたところです。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

必要な箇所の照明増設やトイレの改修等については、生徒に安全・安心な学校環境を提供する意味からも、少しずつでも着実に改善していくことが重要だと考えています。

大阪府全体の予算面の問題もあり、必ずしも確約することはできませんが、現在も府教育委員会に対して行っている予算措置の要望を今後も続け、保護者の皆様とも連携しながら検討していきたいと思えます。

食堂のメニューについても、コンビニやスーパーといった、手軽にまた自分の嗜好に合った食品が提供される環境が身近にあること等により、一定量の需要が見込めないなど、解決すべき課題が山積しています。

必ずしも、お寄せいただいたご要望に対して、直ちにお応えできる回答ではなく、心苦しい限りですが、生徒や保護者の皆様のご意見やご要望を参考にしながら、食堂委員会はもとより、PTA活動の議題とすることを提案するなど、誠意をもって検討していきます。